

官能検査で好まれる和服の袖付け線(オ2報) 女物長着の縦縞の場合
 東京家政大家政 ○井上好 知野恵子 神田和子 藤本やす

目的 私達は 既に和服の肩幅、後幅の寸法差の縫製上における縫い代のなじみ具合について解析した。その結果、肩幅と後幅との差が5cmであっても容易に縫い代を身頃になじませることができた。そこで、オ一報では、これらの寸法を基にして、袖付け線の比較的目的にない柄物の浴衣地を用いて官能検査を行った結果、一対比較法、順位法ともに肩幅と後幅との差が2cm, 1cm, 3cm, 5cm, 4cmの順に好まれた。そこで今回は、袖付け線が目立つ縦縞を用いて、オ一報と同じ条件で実物製作をし、形態上からみて、袖山、肩山の袖付け点および袖付け線における着装時の形態を検討するために官能検査を行った。

方法 縦縞の浴衣地を用いて、肩幅と後幅との差を1cm, 2cm, 3cm, 4cm, 5cmとし、その他の仕立て上り寸法はモデルの体格に合わせて長着を製作する。製作した5種類の長着を同一条件で着装させ、右上肢は自然に下垂し、左上肢は45度に上挙した姿勢で前面より一定距離で写真撮影を行った。写真を同倍率に引き伸して官能検査用の試料とする。官能検査は一対比較法と順位法の二通りとし、被服構成の先生方と和裁の経験のある方に依頼した。パネリスト全員の一対比較法の結果を一意性の係数の検定を行ない、一定の規準で判定を行っているパネリストのみの結果を採用し袖付け線の好みの状態を検討した。

結果 写真判定による官能検査の結果は、一対比較法、順位法ともに肩幅と後幅との差が1cm, 2cm, 3cm, 4cm, 5cmの順に好まれた。